
全年齡版「現実^{じやうじつ}は日本男×韓国女なんです」

いざよいキラー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

全年齢版「現実には日本男×韓国女なんです」

【Nコード】

N1768A

【作者名】

いざよいキラー

【あらすじ】

結婚から出会いへと遡るラブ・ストーリー。日本男と韓国女が綴る、真実の日韓近代史。そよ風に乗せて、貴方に届けます。

君のキムチ壺に、バナナシユート！（前書き）

ノクターンのエロ小説を全年齡版にしてみました。

君のキムチ壺に、バナナシュート！

女の髪へと手を通す。

指の隙間から、サラサラと零れ落ち、
掌たなこころには、何も残らない。

蹴りの破壊力こそ凄まじいが、か弱い女性だ。
抱き寄せれば、その肩越しに赤い絨毯が見える。

『レッドモンキーズ』は、韓国でも一流のホテル。

静まり返った室内には塵一つとして存在せず、
玄関には「日本人と犬、お断り」の張り紙もない。

日本では当然のことだが、
ここでは、それがひどく新鮮に感じられた。

『日帝36年！どうして日本は謝罪しないの！？』

『解決済みだ』

『土下座でもさせて、つまらないクソ自尊心を満たしたいのか？』

『ヒステリーを起こすたび、日帝、日帝』

『僕は天皇陛下に嫉妬しなくちゃいけないのかい。ハハハ』

婚約者は韓国人。

そして俺は、2002ワールドカップの洗礼を受けた反骨者。
こうして初夜を迎えたことは、奇跡だ。

彼女との出会いを思い返す。

「……」

蹴りと討論の記憶しかない。

よりによって、なぜ……

グスグス

今まで、こいつの気位が高いものだばかり思っていた。
結婚まで身体を許すことのなかった婚約者、キム子が、

グスグス

こうして今、俺の胸元で鼻を鳴らしている。

チーン

彼女はバスローブで鼻をかんだ。

一旦、拒絶されてから、どれほどの時が過ぎただろうか。
意味不明な嗚咽も大分、穏やかになった。

チー…フギユ。

二度目の鼻かみを制して、腹を決める。

「バスローブをガビガビにするつもりか」

俺は耳を赤く染め、頬を赤らめて、
今まで必死に隠し、彼女本人には決して見せることのなかった、

優しい表情で、彼女の耳元に囁いた。

「大丈夫。俺たちは夫婦だ」

「全部、言ってしまう」

「何も変わりはない……」

眼下には星の海。

この星の一つ一つに、汚らしい韓国猿が棲息して…

（おっと、危ない）

いつもならテレパス並の勘を発揮して蹴りが飛ぶ。
だが今日は違う。

「…」

やがて、彼女がポツリと口を開いた。

「聞いて」

「私は…中学のころ、最初は、体育館で服を脱げと言われて」
「みんなの前で脱いで、踊った」

「フフ、恥ずかしくて、本当に変な踊りだったよ」

「ストリップショー、見る？」

男の眉間に刻まれた皺が、少し深くなった。

「いや、いい」

「女子もいた」

「汚い物を見るような目で、私を見ていた」

「終わって服を着ようとしたら、後ろで力チャ力チャ音がして」

「倒されて」

「動くと殴られた。だから何でもしたの」

「だって…痛いのは嫌だったから…」

「何度も…何度も…」

「終わって、逃げようとしても、足が立たなくて」

「私は醜いから、誰も同情しないって」

「笑って私のお腹を踏んで、大勢で」

「怖かったの…だから私も笑って…」

「こんな身体なんか、いらない！」

「血も！骨も！全部っ取り替えて」

時折、聞き取れない韓国語が混じる。

この強姦大国は少女にとって、あまりにも過酷な国だった。

男は、握り締めた拳が青白くなるほどの、激しい怒りを感じていた。

「友達が、私を見てて」

日本太郎は、彼女を見て、思う。

強姦は魂の殺人だ。

韓国の強姦猿たちは、ささやかな性欲を満たしただけだ。

しかし彼女は、心を、魂を、誇りを殺された。

「でも、き、気持ちよくて…」

その傷は癒えても、醜い傷痕は生涯、消えることがない。

「気持ちよかったの…」

俺は生涯、やつら韓国人を認めることはないだろう。

イイ奴もいる？

イチイチ選別する義務が俺にあるのか？

「お願い…お願い、助けて…」

そんなことよりも今は、

怒るより先に、すべきことがある。

「…捨てないで…お願い…」

日本太郎は、震える拳を、意志の力でゆっくりと開き、彼女の肩に置いた。

「キム子、お前は美しい」

「その宝石のような涙は、韓国猿が流せるものではない」

いつもなら、ここで張り手が飛ぶ。

しかし、その右手が、今日は背中に回されていた。

彼女の人生において、最初で最後の男であるに違いない
彼を逃すまいとするかのように。

「心は奪えない」

「君の心は…君だけのものだ」

自分でも何を言っているのか分からないまま、男は囁いた。
この夫婦が見た、最初の夢は…

「可愛いよ…キム子」

男の節くれだった指が、芳醇なキムチ壺に埋もれ、彼女がせつなく
鳴く。

「カムサムハムニダ…とっても、とっても、ありがとう」

最後の一線を隔てる壁があつた。

彼女の言葉…全てを知りたい。

韓国語を頑なに否定してきた男の決心が今、
グラグラと揺れている。

「ん……」

そつと唇を付けて、ゆっくりと離す。

目眩がするような、ニンニクの香りがした。

「もつと歯を磨いて…」

「うん、磨く」

「お風呂にも入って…」

「うん。入る」

「貴方の、大きいね」

「韓国男の小さな陰茎…アハハ」

涙を流して、笑う。それは哀しい笑顔だった。

やがて、彼女のキムチ壺が、盛大な爆発を迎えた。

「やれやれ、風呂の入り方から教えないといけないのか」

目覚めた斬魔刀を掴み、キムチ壺にあてがう。

彼の苦笑いが、これから始まる二人の未来を暗示していた。

君のキムチ壺に、バナナシユート！（後書き）

二章以降は、あまり変更ありません。

元ネタは強姦野郎はマジ死ね（前書き）

慰安婦ネタは、いあん。

元ネタは強姦野郎はマジ死ね

「お願い……私を清めて……日本太郎!!」

韓国少女は日本男に抱きしめられて、泣いた。

強姦大国は少女にとって、あまりにも過酷な国だった。

強姦は魂の殺人だ。

韓国の強姦猿たちは、ささやかな性欲を満たしただけだ。
しかし彼女は、心を、魂を、誇りを殺された。

その傷は生涯、消えることはない。

握り締めた拳が真っ青になるほどの怒りを感じた。

私は生涯、韓国人を認めることはないだろう。

だが今は怒るより先に、すべきことがある。

私は、その震える拳を、意志の力でゆっくりと開き、
彼女の肩に置いた。

「キム子、君は美しい」

「その宝石のような涙は、韓国猿が流せるものではない」

「心は奪えない。君の心は……君だけのものだ」

その日、見た夢は……

「可愛いよ……キム子」

私の指が、芳醇なキムチ壺に埋もれ、彼女がせつなく鳴く。
そっと口を付けて、ゆっくりと離す。

目眩がするような、ニンニクの香りがした。

「もつと歯を磨いて……」

「うん、磨く」

「お風呂にも入って……」

「うん。貴方、大きいね……」

「韓国男の一寸法師な陰茎……アハハ」

涙を流して……笑う。哀しい笑顔だ。

やがて、彼女のキムチ壺が、盛大な爆発を迎えた……。

以下、韓国人の感想。

implecto : 韓 - 夜雪を使ってください - - ;
(04/12 13:44)
ehoonny14 : 韓 - ユーモアサイトではないです・
W (04/12 13:45)
zenon99 : 韓 - はでな小説ですね・ エロ小説作家
にデブイして見てください・ (04/12 13:45)
jouyou76 : 韓 - 本当に変態国家らしい！ ニグル
copyしてアメリカ掲示板に今年リマ！ (04/12 13:
45)

chiwoo012 : 韓 - 1980年代韓国のトイレ落書
 き水準だな (04/12 13:47)
 murfin : 韓 - 愛をする時女に短所を指摘する、性器
 の 大少を比べるのは 19世紀以前の猿たちだけだ、その外には
 立派だった。 (04/12 13:51)
 murfin : 韓 - 付け足し、韓国には猿がない。”
 日本猿” と言う(のは)学名はイッドラだけは。 (04
 /12 13:54)
 sarodoca : 韓 - ここは歴史討論の場だ。 (04
 /12 13:08)
 akicom5210 : 韓 - これ、日本にもこんなネチ
 ズンはいましたよね。 ちょっと粗っぽいエロ小説ですが。 (0
 4/12 13:08)
 japaris : 韓 - うーん。 . . . 大丈夫だが。 . . .
 . (04/12 13:08)
 ukjin2 : 韓 - これ 19歳であるよう ^^ (0
 4/12 13:09)
 gaebbeong : 韓 - 良かった。 (04/12 1
 3:09)
 zalhaza500 : 韓 - kimuchizamura
 i<初恋に失敗したの? 誰も君を愛してくれないか? 死ぬ前ま
 でまともにできた愛一度やって見られなくて ^^* (04/1
 2 13:10)
 karabito : 韓 - . . . どうせ挑発スレではあるが。
 . 素材がフレッシュで笑いました。 . . . (04/12 13:
 11)
 11)

元ネタは強姦野郎はマジ死ね（後書き）

そのまま載せちゃうってのも芸がないですよ。うーむ。

日帝36年の謝罪と賠償おつゆ。(前書き)

シチュエーションをデリヘルに変えてみますた。

日帝36年の謝罪と賠償おつゆ。

男は髪をかきむしった。

「ここは…どこだ？」

自宅の玄関だ。

「いや、それはいい」

問題は、この女だ。

「はじめましてえ」

扉の前でにこやかにお辞儀する、こいつは誰だ？

「ああ良かった」

「チェンジンなんて言われたらどうしようかと思っちゃった」

ホツと胸をなでおろし、

聞き慣れた韓国語訛りとともに差し出された名刺には、
案の定、リーなんと姓一文字に名前が二文字。
そして会社名。

『デリヘル・キムチ桃源郷』

『韓国の仔猫と自宅でニヤンニヤン』

どうやら俺は、やっちゃったらしい。

いつの間にか服を脱がされて、ここは寝室で。全裸で。
俺はワールドカップ以来、筋金入りの韓国嫌いだったはず、
よりによって、なぜ…

シュバツ

その時、脳裏に一つの映像がフラッシュバックした。

ああ。

韓国女のネリョチャギ。

あのとき垣間見える、魅惑的な、白い布のせいだ。

分らない……。

「学生さん、彼女いるの？」

「いませんよ。はは」

「そうなの？」

「オルチアング（美男子）……駄目ね。日本語日本語」

日本語を覚えてから、まだ日が浅いのだろうか。

お姉さんは舌を出して、戒めるように自分の頭を小突いた。

「貴方かっこいいのに、もったいないね」

クポ…クポクポ

うはーまあいいや。

なんとなく、話しかけてみる。

「やはり、韓国の方からいらっしやったんですか」

「もふ」(うん)

斬魔刀を咥えたままモゴモゴと頷いた。

「ここは長いんですか？」

「もふもふ」(そうでもないかな)

「そうですかー、大変なんですネ」

「もっふり」(そんなことないよ)

「どちらにお住まいなんですか？」

「もふもふもふ」

「え？そうなんですか」

「もふっもふっ」

「あーなるほど」

「もふ？」

「もしかして、密航ってやつですか」

「も、もふ」

「別に構いませんけど不法滞在ですよね」

「もふ…」

「それはまずいですよ。貧しくても本国で…」

「ふぎほぐははぐぐへは」(なに言うの！日本のせいで…)

「いたた！噛んでる！噛んでる！」

突然、デリヘル嬢は仕事そっちのけで、
覚醒寸前の斬魔刀を「ペツ」と吐き出した。

「韓国の悪口を言わないで！」

「日本が賠償金を払わなくて、だから私たちは貧しいの」
「ドイツを見習って！厚かましい子！」

「うー」と唸り出しそうな顔で睨み上げてくる。

そんな彼女の目前で、所在なげにブラブラ揺れる斬魔刀。

(…噛み千切られそうだ)

手の平でガード。

これが火病か…黒目の中に猛る炎が見えるようだ。

「うー」

立ち上がって、本当に唸り出した。

だが、ここは引けない。

デリヘル嬢は禁断の一線を踏んでしまった。

目前でたわわな乳を揺らすこの女は、たった今、敵となった。

「フム…」

俺は特大ブラジャーを両肩にピシッとかけ、居住まいを正した。

「君は今、ドイツを見習え…」と言ったね」

「それは深刻な間違いだ。訂正したまえ」

「彼らは謝罪も賠償も、全くしていないのだよ」

お姉さんはキョトンとした顔で、目をパチパチさせている。

「全てナチが悪い。ドイツは無関係だ…」とね」

「さて、始めようか」

自宅で、しかも全裸での歴史討論。

初めての経験だった。

討論の経緯

Q .

日本は韓国を植民地にした。ドイツを見習って反省しなさい。

A .

日本と韓国（朝鮮）は戦争していない。つまり植民地ではない。

植民地ではないので賠償の義務はないが、お人よしの日本は「独立祝い金」と名目を変えて賠償金を渡した。個人への賠償金を韓国政府が着服して、勝手にインフラ整備へとつぎ込み、これが後に漢江の奇跡と呼ばれる。ドイツを見習えば、逆に韓国に対して財産の返還を請求することとなる。

Q .

お金はいらない。誠意ある謝罪の言葉が欲しい。

A .

歴史の経緯を見ると、日本が謝罪する必要はない。

しかし善意から、歴代の総理大臣が17回も謝罪した。

これは全てなかったことにされた。韓国の報道体制に問題がある。

論破完了

「そんな知らなかったな…」

「私は紙一枚にお詫び三行…んー。分かったの」

お姉さんは、俺をまっすぐに見据えて、
こう結論付けた。

「あとでP C 房へ行つて、調べる」

「信用できない？」

「証言だけでは、証拠にならないの」

人差し指を立ててウィンク。

「はは。こいつは一本、取られちゃったな。わはー」

「うふふ」

あまり追い詰めると『料金不払い事件』を捏造しかねない。ささやかな花の一本くらい持たせてやるのが大人だ。

「ほら、息子のタン君も痛い痛いって泣いてるよっ」

論破達成でハイになった俺は、未覚醒の斬魔刀をブルンブルン振り回した。友人には絶対に見せられない光景だ。

「アハ、かわいそう。ここ、痛かった？」

チュ、チュ、

斬魔刀に入った赤い亀裂を彼女の唇が癒していく。日本人にはありえないパワフルな愛情表現だ。

クポクポ。チュバーツ

「う、うま」

その突出した技術に翻弄され、夢のような時が過ぎていく。やがて俺の斬魔刀から、白く煌く精気が解き放たれた…。

- epilogue -

ピンポーン

キム子が俺の部屋を訪れた。

「日本太郎、アンニョン」

「ようキム子」

俺は爽やかな笑顔と共に、彼女へ向けて二本指を立てた。
勝利のVイダ。

「涼しくて、いい夜だな」

「心のもやもやが綺麗に洗い流されるようだ」

もし相手が日本人なら、妙なスイッチが入った俺を、警戒すること
だろう。

しかし彼女は、

「うん…」

「そうね。本当にいい夜」

艶やか…でもない黒髪を夜風になびかせ頷いてくれる。

外人の、こういうストレートなところは、嫌いじゃない。

「知ってる？あの星…」

彼女の瞳が夜空へと動く…が、俺の背後でピタリと止まった。

「ああ気持ちよかったの」

「お仕事忘れちゃったー！」

石鹼の香りを漂わせて現れるデリヘル嬢。

お姉さんはすれ違いざま、俺の耳たぶを噛んだ。

「うそつきなのね」

耳元で囁き、クスクス笑いながら、
そそくさと去っていく。

「……」

硬直するキム子。

「下半身のドロドロも、綺麗に洗い流しました」

「韓国女、大変に具合がよろしゅうございましたとも」
「ほほほ」

近所迷惑を考えて、慎ましく笑う馬鹿が一人。

「最ッ低……！」

ファビョーン……！！……！！……来る……！！

ブンッ

……ネリョチャギ……前に詰め膝を捌いた。

100%だ。

煩惱が落ちて、俺の頭はキンキンに冴えている。
白い布如きに惑わされはしない。

だがスタミナ勝負だけはまずい。

テコンドー…否、

『日本式韓国空手』の有段者が放つ、
本日最後の蹴りを軽々とかわし、

「うひょーい！」

「フンダララ！！！！フンダララ！！！」（待ちなさいよ！）

未知の言語を喚く韓国女を尻目に、
俺は夜の街を一人、駆け抜けるのだった…。

日帝36年の謝罪と賠償おつゆ。(後書き)

『いざ抜かん!』と意気込んでいた処女スキーたちは大激怒。これ名文です。その辺のドロドロした感情をシナリオに盛り込めば一皮むけたのに。残念ですね。

財産の返還（ドイツQuality）（前書き）

韓国のネットゲームが発達している理由は、

著作権のモラルが低すぎて、オフラインゲームを作っても違法コピーされまくりで儲からないからなのです。

財産の返還（ドイツQuality）

風俗お姉さんが、PC房でマウスをカチカチやっている。

PC房とはネットカフェのこと。

ITの普及率を誇る韓国だが、そのほとんどがネットカフェだ。

「アアアング」

「ボタンがカチカチうるさい！！！！！！」

「静かなマウスが欲しいね」

今日はデリケートな日だ。

検索ワードは、

『日本』

『韓国』

『ドイツ』

『財産の返還』

「エンジンはヤフーにするの」

「差別の中で富を築いた、誇らしい韓民族DNA」

「ホルホルホル」

YAHOOサイトが立ち上がった。

「まいやひー まいやふー まいやほー」

今日のニュース・トピックを見る。

「ヨロレイ……あ」

「また靖国参拝してる!!!!!!」

「A級戦犯は『A級』だから、とても悪い人なの！！！！！！！！」

ファビオン!!!!!!1

お姉さんの理性が吹き飛んだ。

30秒後。

「ん……クッション破けてるの」

「?..?..?..?..?」

人差し指を頬に当てて、首を傾げる。

⌈
⋮
⌋

なんとなく原因は分かっていたが、それを認めると弁償をしなければならない。

「そんなことよりも検索検索」

「誇らしい yahoo」

彼女は何事もなかったかのようにホルホル微笑みながら、検索ボタンをクリックした。

<財産の返還について>

第二次世界大戦で、ポーランドやリトアニアから追放されたドイツ人が、

両政府を相手に、残してきた財産の返還を求める訴訟を準備。独とポーランドは、「追放」を受けた国民への補償を既に行っているが、

強硬派は財産の返還を求める構え。

新聞記事より抜粋

「うーん」

「それには『個人の請求権』が必要なのに」

カチカチ。さらに検索。

韓国では機密情報として扱われていた

『日韓基本条約』の全文。

「読める…読めるの」

お姉さんはゴクリと唾を飲み込んで、
本国の秘密に触れた。

日韓条約のまとめ

1・大日本帝国と大韓帝国間の条約協定は全て無効。

2・韓国は半島で唯一の合法的な政府。北朝鮮は国家として承認しない。

3・請求権と経済協力について。

日本国は韓国に対して無償で供与、長期低利の貸付けを行う。
賠償金は国家に対して支払う。

国民の財産の請求権に関する問題は、完全に解決された。
個別請求権の問題は解決。相手国家に対する個別請求権を放棄。

4・日韓漁業協定

5・在日韓国人の法的地位（クソ優遇）

こんな感じです。

「……」

「なるほど……ね」

「韓国は日本と話し合って、それを放棄したから」

「財産の請求はできない」

「そっちの方が韓国にとって有益だから」

「そういうことね」

椅子に座り、深いため息をつく。

やがて残酷な結論に達するまで、それほど時間はかからなかった。

「もう……」

「なぜ我が国は日韓条約を秘密にするの」

「日本政府が『秘密にしないさ』って命令した？」

「子供みたいなウソだよ。アアアング！！！！！！恥ずかしい」

「大韓幻想が壊れちゃったよ。及びそう……」

お姉さんは憂さ晴らしに、

ネットゲームで日本人プレイヤーを数人ほど抹殺してから、
トボトボとネットカフェを立ち去った。

財産の返還（ドイツQuality）（後書き）

東北はゲーム関連の会社、少ないですね。
例のどこ、解散ですし。

万景峰号（バンケイホウゴウ）とお読み。（前書き）

北朝鮮バージョンにしてみました。

万景峰号（バンケイホウゴウ）とお読み。

僕には、在日朝鮮人の友人がいた。

「太郎君。ご縁があれば、また」

ここは新潟港。

金日成バッチを付けた金田がいる。

彼女は祖国への帰国を決意した。

在日朝鮮人の国籍は北朝鮮。

祖国とは北朝鮮のことだ。

「再びお会いする日まで」

「…を鍛え直しておいてくださいませ」

ペシッ

見えない速さで斬魔刀をデコピンされた。

「本国の殿方は、きっと正しいことでしょうね」（貴方と違って）
「楽しみですわ…嗚呼」

（うつとり）

挨拶もそこそこに、幸せ回路が起動してしまった。

（ポワーン）

金田はお花畑へと逝った。

いつものことだ。

帰ってくるまで待つしかない。

（トヌーン）

妙な見送りだ。

「……」

ん？

「……」

なんだろう？何か聞こえる。

長白の山を血に染めて

鴨緑の流れを血に染めて

キムチの色も血に染めて

歌だ。

朝鮮の自由、守るため

戦いきたりし正義の味方

その名も尊き金日成 偉大な將軍、金日成

キムキムイルソン、マンセー！！！！！！！！（万歳）

悪趣味な身なりの中年男が唄っている。

「オラどかんかいポン人！」

「ワシラ在日コリアンやぞ。カワイソウや思わんのか？」

「後ろ突っ立たせてのう…またワシラ差別するんかい。おお？」

その中年男は入口に並ぶ観光客を蹴飛ばして、行列の先頭で仁王立ちした。

「ったく。これやから日本人は嫌いやがな」
「ごるあー！ザイコお！時間やでえー！」

ああ。

多分、金田の親戚だ。

本当は在日「朝鮮人」なのだが、
彼らはチョーセンという響きを嫌う。

「わたくし『在コ』ではございません！」

「セ・イ・コ」

「ですわ叔父様」

「…もう、また通名、変えようかしら」

あ、戻ってきた。

彼女の通名は「金田済子」

本名は知らない。

シャワーを浴びている間に免許証を見て調べようとしたら、
灰皿で殴られた。

「あら、もう期限ですの？」

「うん。さよならだね」

「ええ。それでは御機嫌よう」

何の未練も示さず、僕に背を向けて、
タラップへと歩み出す。

「東海にポツンと浮かぶ小さな島国…」

彼女は立ち止まり、物憂げに地面を見た。

真鍮製の金日成バッチが、カタカタと風に鳴っている。

「戦犯国家と指差され、広いアジアで孤立なさって」

「地震が起これば、さぞ心細いことでしょう」

「君の言うアジアって中国と朝鮮だけ…」

ゲシッ

無言で蹴られた。

「いい気味ですわ!」

「差別大国は沈没あそばせ!」

ペッ

金田は日本の大地に唾を吐いて、万景峰号に乗り込んだ。
目的地は北朝鮮。

裏切り者の在日右翼が放つ怒号と、
善良な市民の抗議、マスコミの視線を背後に受けて、
船は、ゆっくりと水平線の彼方へ消えていく。

回想

『なんですか？この腑抜けたおちんちは？』

朝鮮半島から日本へと強制連行され、
過酷な差別を受ける在日朝鮮人。

回想

『ほらあ…もう少しですわよ。シャンとなさい』

哀れな身の上話を延々と聞かされて、覚醒もままならず…。

回想（元ネタは小宮山さん）

『フフ、やればできるじゃありませんの』

恋愛感情はなかったが、

日本人を代表して、僕は必死に尽くした。

戦争犯罪の贖罪だ。

心無い学友からは「奴隷」と揶揄された。

「差別大国、か」

「とうとう最後まで、僕たち日本人を許してくれなかったな」

頬が冷たい。

涙だ。

僕はなぜ泣いているのだろう。

報われなかった悔しさか？

別れの寂しさ？

厄介者が去って安心しているのか？
それとも…

「はは…」

病気になってしまったのだろうか、涙が止まらない。

金田は、そんな僕の姿など見向きもせずに、
まだ見ぬ故郷での暮らしに思いを馳せていることだろう。

でも、それでいい。

誰だって泣くところを見られるのは、
恥ずかしいものなのだから。

ああ…そうか。

今ごろになって、気付いた。

僕は水平線に沈む万景峰号に向けて蚊のような声で呟いた。

「さようなら、初恋の人」

- e p i l o g e -

あれから二年の月日が過ぎて、
俺は一人前の戦士へと成長を遂げていた。
一人称も「僕」から「俺」に変わった。

そんなある日、海外から電話がかかってきた。
友人…というか元セフレの在日朝鮮人だ。
彼女は乙女のように、か細い声で言った。

「本当の差別を知りました．．．日本は天国でした」
「天国の日本。在日朝鮮人は差別されていたのではなくて」
「ただ、嫌われていただけ」
「私たちは嫌われて当然…」
「北朝鮮は地獄…激しい差別と圧政と…」
「…」

不意に言葉が詰まる。強制収容所、か。

「私たちは日本人と変わらない…こんな子供でも分かること」
「移住してから、初めて知りました」
「北朝鮮では生活保護も貰えない…いえ。とても貰えませんわ」
「だって本国に迷惑なんて…！」
「お願い。日本へ帰りたい！私の故郷は日本です！」

パンパン

花火の音に似ていた。
祭りでもあるのか、と思った。

「あ」

ブツブツ、と、

金属が衣服を破り、肉に食い込む音。

ガチャガチャッ、ドサリ。

「金田？」

「痛い……痛い……」

受話器の向こうで、うわ言のように繰り返される言葉。

「……痛いよ……」

「おい……おい……!!!!」

ツ……ツ……

彼女の性格だ。たちの悪いイタズラだと信じたい。
だが、それは絶望的に低い確率であることも、
この時の俺は知っていた。

「人種差別」と「強制連行」
そして、日本人よりも多額の税金を搾取され、
苦しみ続ける在日朝鮮人。

Q

日本は人種差別大国

A

日本に人種差別など存在しない。
海外へ移住してみましよう。

三日くらいで骨身に染みて分かります。
日本に人種差別が「ある」と仮定した場合、
その起源は戦後の朝鮮人暴動に帰結します。

戦後、弱体化した日本へ不法入国。
強姦虐殺略奪やりたい放題。

軽蔑される。復興が進み、当然のように就職難。

犯罪をやらかす。

ますます軽蔑される。

更に凶悪な犯罪を…

Q

以前から日本にいましたよ？

A

無料の定期船が往復してて、

生活基盤とやらでお金もあるのに、
在日さんだけが帰りませんでしたね。

他の二つは論外。大嘘。

別れてから二年が過ぎて、全て嘘だと知った。

そして俺は妄想の中で、何度も何度も新潟港の金田を論破した。
突きつけるべく懷にしまった、その言葉も…

「最悪の気分だ」

俺は、受話器を乱暴に掴み上げダイヤルを回す。

昨日、起こった憂鬱な出来事だ…。。

万景峰号（バンケイホウゴウ）とお読み。（後書き）

拉致されて殺されちゃった人って三桁いつてるんでしょうね。証拠がないだけで。

元ネタ／妄想の中の差別大国／（前書き）

この小説は、結婚から出会いまでを逆向きに綴ります。

元ネタ／妄想の中の差別大国

私の友人に、在日韓国人がいる。彼は祖国への移住を決意した。在日韓国人の国籍は、韓国。祖国とは韓国のことだ。

「私は祖国へ帰る。差別大国の日本は滅びなさい p u」

在日韓国人は、日本の大地に唾を吐いて、飛行機に乗った。目的地は当然、韓国。

しかし、二年後。海外から、私に電話がかかってきた。友人の在日韓国人だ。彼は女のように、か弱い声で言った。

「本当の差別を知った．．．日本は天国だった」

「天国の日本。在日韓国人は差別されていたのではない」

「性格が悪くて、嫌われていただけだ」

「おびただしい犯罪を起こす在日韓国人、嫌われて当然だ」

「激しい差別、強姦、犯罪、嘘。韓国は地獄だ。」

「日本へ帰りたい．．．私の故郷は日本だ」

彼は電話の向こうで泣いた。

昨日、起こった憂鬱な出来事だ．．．。

以下、韓国人の感想。

- ノベル文学賞

- 本当か？ 私の周辺には在日韓国人がゾックイイツオッダ・
ネットという女息のお名前は、哀話、だったか・
これといった差別みたいなことはしなかったし違うという考えも
しなかった・

- 在日韓国人よく保持しないが差別だと感じることは本当でない・

- 大韓民国で在日韓国人を差別する馬鹿はいない・ 歪曲するな・

- 少なくとも、激しい差別、強姦、犯罪、これは嘘だ・

- 本当にこういう場合はない・ 何か他の事情があるでしょう・

- <http://www.koomi.net/> > - - 日本
より韓国がもっと良いと言う人も多いです・

- この文は価値ない・ 確かに個人差・

元ネタゝ妄想の中の差別大国ゝ（後書き）

障害者の生活保護廃止より先に、不正受給を根絶するのが先です。年金制度を壊滅させちゃったりして本当に何やってんですか。

日韓併合と武術の起源・前編（前書き）

肉汁したたるハンバーグ……じゅるり。

日韓併合と武術の起源・前編

ここは喫茶店『モングキ侍』

名前はともかく、味は拔群の小洒落た店だ。

カランコロン

カウベルが鳴った。

俺を見つけたキム子が、胸元で手を振る。

「日本猿、アンニョン」

どんな時でも挨拶を忘れないキム子は

韓国人の中でもマシな方だと、

在日コリアンの性格を熟知する俺は思う。

「そのキムチ臭い口にバナナを突っ込んで、劣等愚民語を封印してくれようか」

俺も無難に返礼を交わした。

『愚民語について』

韓国語の「ハングル」は、日本の「ひらがな」に当たり、かつては漢字と併用していたが、お得意の日帝云々で、それを廃止。文字通りの愚民語に成り下がってしまいました。

現在の韓国語がどのようなものか？

それを味わっていただくために、

今回、主人公のセリフは全てひらがなで通します。

ちなみに今日はキム子と二人で歴史討論の日だ。
決してデートではない。

「よくきたな。まあすわれ」

「それではきょう『も』につかんへいごうについて
「はなしあおうじゃないか」

キム子は厳しい表情で、力強く頷く。
久しぶりにマトモな感じで日韓近代史の討論が始まった。
俺のセリフはひらがなだが、支障はない。

討論の経緯

Q .

日韓併合によって、日本は不当な利益を得た！

A .

利益は0。大赤字でした。

Q .

日本の侵略戦争だ！！

A .

先に攻撃をしかけたのはアメリカ。
ハルノート以前に、日本の船を攻撃させて撃沈してます。

Q .

日韓併合は武力を背景とした強制で、

とんでもない圧政だった！！！！

A .

強制性については、

「韓国が主催した」国際学術会議で完璧に否定された。
海外の歴史学者で圧政を認める者はいない。

Q

日本語を強制された！！！！

A

韓国語の映画や、ラジオ放送の記録があります。

Q

名前を奪われた！！！！！！

A

逆です。

日本政府は、朝鮮人が日本名を名乗ることを禁止していた。
それを解除しただけ。 I a m j a p a n e s e !

Q .

日本軍による虐殺や強姦も、少しはあったはずだ！！！！！！！！

A .

日本と朝鮮は戦争していません。

論破完了

「当たる．．．」

「韓国と日本では、おびただしく情報が違うの」

キム子は釈然としない顔ながらも、渋々と頷いた。

相手のプライドを傷つけず諭す話術。

これも討論では必須となる。

ムキになられて泥沼なんてのは最悪だ。

まあ、また三日で忘れるんだろうが…

「はらへってないか？」

「おごるから、なにかたのむといい」

「うん。ありがとう」

速攻で機嫌が直ったようだ。

キム子は目をキラキラさせてメニューを開いた。

「喫茶店なのに、お茶よりもお料理がたくさんなの．．．」

涎をじゅるじゅる垂らして、ご機嫌なキム子。

俺の分はといえば、論破完了と同時に届くよう、既に注文を済ませてある。

「はい！太郎君！味っ子ハンバーグ・ドン！」

そら来た。

マスターが料理を運んできた。

ここのハンバーグは絶品だ。
木製のフォークを取り、一口。

「んまつ」

「はんばーぐ、好きなの？」

もぐもぐ、ごっくん。

「だいこうぶつだ」

次に、こいつはこう言う。

（流し目で）

『ハンバーグが大好きなんて、こっどもおーう』

彼女はメニューへと視線を戻して、言った。

「ふーん」

外れた。

まあいいや、食べよう。

もふもふ

デミグラスソース以外は邪道。
金属製のフォークは、金気が味に移るので、
なるべく避けていたきたい。

「味っ子」とは、例の作品だ。

マンガなどの奇をてらった料理法は、
得てして当たり外れがある。

しかし……

ジュルッ

フォークを肉片へと滑り込ませる。

（美しい）

目の前で肉汁をしたたらせる、このハンバーグは、
「味っ子理論」を導入して、
その結果、成功した数少ない例の一つだった。

「太郎」

とんとん

「ん？」

キム子がメニューを人差し指で叩く。

「ここ、キムチあるよ。キムチは食べないの？」

「きむち？ いままでなかったぞ」

テーブルから上半身を乗り出して、メニューを覗く。
こいつ乳でけーな。

「あちゃー。しんめにゅーか」

やっちまった。この喫茶店はお仕舞いだ。

半島に媚を売る者は自滅する。

朝鮮半島にまつわる不幸の法則は、嫌韓クラブの常識だ。

（グーグルにて『あの法則』『半島』を検索）

マスターを横目で見ると…

「韓・日・友・好！」

彼は脂ぎった笑みとともに、

人差し指と中指の間から、親指を突き出した。

閉店確定。

「どうしてウンザリしてるの？キムチ、食べようよ」

「きむちは、もう いっしょう たべない」

「そんな…おいしいよ？」

「キムチは優秀な食べ物なの」

「食べれば食べるほど絶倫になります」

「べつにならなくていいし、たべないといった」

「きこえませんでしたか？」

「突然、なによ……」

「そんな言い方、あまりにも癪癪が起こるね」

「例え貴方がチョッパリであっても、キムチを食べなければなら
ない！」

キム子はテーブルをドン、と叩いた。

「ほう、こやつめ」

俺の中で、カチン、とスイッチが入った。

「ちよっぱり…と、きたか」

「おもてにでろ。ほかのきやくにめいわくがかかる」

「けつちやくを、つけようではないか」

「ガルルルル」

唇の脇から泡を吹いて唸るキム子へ、

俺は親指で店の外を指し示す。

殺気立つ二人は、閑古鳥が鳴く店内を後にした・・・

日韓併合と武術の起源・前編（後書き）

漫画の奇抜な料理法って、どうなんですかね。
今度、やってみましょう。

元ネタゝ火病の狂戦士たち（前書き）

コムド。近代剣道は、韓国から伝来したそうです。
笑っていいのでしょうか？

元ネタゝ火病の狂戦士たち

場所は喫茶店。私を見つけて韓国人が挨拶した。

「日本猿、アンニョン」

私は驚いた。あの韓国人が挨拶をした。

彼女は未開な反日猿ではなく、論理的な知識人だ。このように感じて、私は安心した。

「そのキムチ臭い口にバナナを突っ込んで、劣等愚民語を封印してくれようか」

私も、このように挨拶を言って、討論を始めた。討論と言っても、内容は某BBSの繰り返しだ。
(2CHではありません)

私の作業は、時折、某BBSの先輩が立てたスレッドを思い出して、その内容を、そのまま言うだけ。

「日帝はひどいことをしたの．．．でも．．．」

彼女の心にある、邪悪な日帝が、乾いた音を立てて崩れた。韓国の捏造は砂の城だ。幼児が砂浜で作る、脆い砂の城。

そして、異変が起こった。

彼女は獣のような顔で、口から泡を吹きながら、私に襲いかかってきた。

しかし私は背筋力が200kg、握力が60kgのタフガイ。
易しく暴力を阻止してやった。

韓国人は土下座して、何か謝罪を始めたが、絶対に油断はできない。

右の拳についた血を拭いて、思う。

やはり人類と朝鮮民族は共存できないのだろうか？

悔しくて、汗と、涙と、ため息が出た。

「これが火病・・・恐ろしい・・・」

警察を呼ぶような事態にはならなかったが、
韓国人は全て精神病患者なのだろうか？

そうではないと信じたいが、某BBSを見ると・・・鬱が起ころ。

以下、感想。

韓 - いったい翻訳にならないのね^^

韓 - この猿ムオラヌゴか？ 乳児退行か？

日 - ？わつじ

日 - 2点 捻りが足りない。

韓 - フイクション・www ところが、日本猿、こんにち
は(さようなら)は何かおもしろい。

韓 - 猿！！翻訳もならない！！

日 - 2.5点、もつと実話ぽく

日 - 背筋力200kgは実話。

日 - 文章としての流れが良く、起承転結も踏まえ、誤字脱字も見当

たらないので、もう少し高く評価しても宜しいかと。w

ポエム「私は韓国車を愛していた」

韓国製の車で高速道路を走った。

時速100Kを越えると、突然、爆発した。

私は屋根を突き破って、数秒間の浮遊を楽しんだ。

一瞬で、人生の全てを思い出した。靖国で会おう・・・。

親指で押すと、装甲がへこむ韓国製の車・・・。

私は韓国製の車を愛していた。

遠い、昔のことだ・・・。

元ネタゝ火病の狂戦士たち（後書き）

今回は、失われた武術・実戦合気道 vs 日本式韓国空手テコンドー。

日韓併合と武術の起源・後編

「今度、差別用語を使ったら、乳を揉みしだくと言ったはず」
「忘れたか？」

「そんな約束してない！」
「なぜ胸なの？キチガイ太郎」

「都合の悪いことは三日で忘れる鳥頭がいてさあ」
「忘れるって『忘れた振り』じゃなくて、ほんとに忘れてやんの」
「だから差別用語を言ったびにモミモミしてやれば」
「そのうち身体が覚えるんじゃないかなって」
「アメとムチってやつ？調教？」

「っ」
「気持ち悪いヘンタイ奴」

頬を紅潮させ胸をかき抱くキム子。
だが哀しきかな巨乳。
乙女の細腕では隠しきれない。

「おやおや、はしたない」

はみ乳を弄ぶも一興。

「揉むぞ」
「得意の『日本式韓国空手』で防いでみるがいい」

実戦合気に構えはない。

最短距離を真っ直ぐ、はみ乳へと手を伸ばした。

ザワッ

キム子の「意」が動く。

「チィッ!」

ジャッ

天を打ち抜く前蹴り。

袖のボタンが千切れ飛び、コツ、と地面に転がった。

風が前髪を揺らす。

白い布。

彼女は翻るスカートを押さえもせず、構える。

「四度目」

「テコンドーを侮辱しないで」

本気の蹴りだ。

喰らえば骨が砕けていた。

「テコンドーの起源は空手」

「事実だ」

「韓国武術の起源が、日本にある」

「この事実が、それほどまでに屈辱か？」

「…」

射るような視線。強い肯定の意志。

「ならば、彼らの態度をどう解釈なさるおつもりか」

韓国の常識

日本の文化は全て韓国起源

Q .

侍は韓国が起源！！！！

日本に渡来したサウルラビが、日本猿に侍精神を教えた。

A .

サウルラビは百済（346 - 660）のエリート。

侍は最低でも江戸時代（1500）以降の言葉。
ちよつと無理がある。

サウルラビは、戦う人。侍は、仕える人。
なんかびみょー。

「微妙」はUOから流行し始めたんだよね。

Q .

卑怯な日本は、朝鮮から刀鍛冶の技術を盗んだ！！！！

A .

古代朝鮮の刀は片手用の直刀。

韓国の職人は現在進行形で日本刀のパクリを

「朝鮮刀」と称して売っております。

Q .

剣道、柔道、空手

日本武術の起源は韓国！！！！！！！！

A .

戦後、韓国は日本の文化を禁止しましたが、
でも剣道とか柔道とか続けたい。

そこで韓国が起源である。

これは韓国の武術だと定義して、誤魔化したのです。

Q .

イチロー、ナカタ、キムタク。

優秀な日本人は、全て在日コリアン。

誇らしい韓民族DNA！！！！！！！！！！

ホルホルホル

A .

アホ

Q .

他、日本文化で有名なものは全て韓国起源。

A .

90%が大嘘で、9%が半島を経由しただけの中国起源。
1%くらい何かあるかもしれない。

Q .

天皇は朝鮮人だ！！

A .

どっちでもいい。

逆に韓国の大統領が日本人だったら、かなり嫌。

「日本に対してだけは、いかなる非礼も許されると申すか」
「答えよ。キム子殿」

「…」

ぶつかり合う二人の「意」が宙を侵食し、
グニヤリと景色が歪んだ。

「事実なんて、どうでもいいの」
「テコンドーを侮辱しないで」

「引けぬか」

衝突を避ける為の努力は尽くした。
これは不可避の戦い。
俺は覚悟を決めた。

淫気渦巻く河原を見下ろす丘の上。

「ん？」

サワサワと木漏れ日の中、
パサ、と新聞を丸めて
少女が立ち上がる。

（またやってる）

二人を見下ろして、鼻でため息。

韓国人は犬を食べるが、

夫婦喧嘩は犬も食わない。

眼鏡っこは静かに目を閉じると、

火花を散らす二人に向かって合掌した。

「まごころこめて」

「日韓友好成就法」

「なむみょー」

ジャリッ

「嬢ちゃん、太郎の知り合いかね？」

「うひゃあっ」（後ろ！？）

「驚きすぎじゃよ」

飛び退いた距離は10mを越えていた。

「ビックリしたー」

（この距離まで気配を悟れなかった）

70歳は下るまい小柄な身体。

白髪。

温和な微笑み。

組織から配られた『敵』の顔写真を思い出し、目の前の人物と見比べる。

どうやら仏敵ではない……けど、

（この老人、ただものじゃない）

眼鏡っこは、胸をなでおろし、人懐っこく笑った。

「私、彼と同じ大学で」

「何度か県の投票所へ連行……いえ、お誘いしたことがあります」

「選挙か、お若いのに感心感心」

老人は穏やかに双眸を崩した。

「太郎のあほうからは、blueじいと呼ばれとる」

「奴に合気を教えたのはワシじゃ。昔の実戦合気道よ」

「お師匠様なんですね」

「昔と今の合気道は、どこか違うんですか？」

「全く別物じゃよ……ふむ」

「太郎のあほうは、極意を守っとるようじゃの」

「よしよし。いい動きだ」

『ぬふう』

『寄るな！猿！』

蹴りを捌きながら
執拗にハミ乳を狙う、
主人公の図。

老人は満足げに頷いている。

「合気道の技でおっぱいを触るのが『極意』ですか？」
「そんなの不潔です。無間地獄に落ちますよ」

（ていうかオッパイって私……）

恥じらう眼鏡っこ。

「当たらずとも遠からずじゃな」

老人は、カカカと笑った。

「嬢ちゃん」

「昔の実戦合気と、現代の合気道」

「その違いは、どこにあると思いなさるね？」

「はい？分かりません！」

「なんのことはない『掌握』よ」

「掌握とは、手の平を握ることじゃ」

「基本は腕を狙う」

「触れたら即座に折り。離れる」

「寝たり、投げたり、転がったり」

「そんな悠長な真似はせん」

「あのあほうには、ソレを教えてある」

「ひい」

（撃鉄を起こす指には勝てない。実戦格闘技なんて古臭い）

「四方投げ……芸術なんぞともてはやされとるがな」

「ありや客寄せの見せ技じゃ」

「本物の『死法』は投げぬ。飛ばさせぬ」

「一息に折る」

「うで……」

「安心なされい」

「あのあほうは、死法より極意に忠実よ」

「女の悲鳴なんざ聞きとうもないわ」

「ですよね……あ」

「でもそれならキム子ちゃんが有利じゃないですか？」

「だってテコンドーはキックだけですもの」

「うむ」

「掌を引つ込めれば『掌握』はできぬ……が」

「そつはいかんところが合気の妙味よ」

「萌えてきましたね」

「ところで極意って？」

「ん、言わんかったかの」

もしも孫が生きていれば……
老人の目が、スツと細まった。

「簡単なことじゃ」

「自分を殺しに来た奴と仲良くなることだよ」

彼は、遠い目をして呟く。

「空っぽじゃ」

「戦の中に、人の道はなかった……」

- epilogue -

それは、いつもの火病とは違った。

「& amp; ;#46412; & amp; ;#47532; & amp; ;
#51648; ; & amp; ;#47560; ;! & amp; ;#47
952; & amp; ;#46304; & amp; ;#51648; ; &
amp; ;#54624; ; & amp; ;#53580; ; & amp; ;#4
5768; & amp; ;#44620; ;!」

（殴らないで！何でもしますから！）

俺の前に跪き、泣きながら合掌するキム子。

怪我はさせてない。

「そうか…そうか……つらかったのう」

じじいが何か悟ったような顔で、
あいつを慰めていた。

「さ、いこうね」

久本がキム子を連れて行く。

俺は、どうしたらいいか分からない。

あの時。彼女は豹変した。

凄まじい怪力で跳ね飛ばされた。

「& a m p ; # 4 5 9 0 8 ; & a m p ; # 5 1 0 6 0 ; & a m p ;
4 9 3 4 5 ; …… & a m p ; # 4 8 7 6 4 ; & a m p ; # 5 0 5
1 9 ; & a m p ; # 5 1 6 4 8 ; & a m p ; # 4 7 5 6 0 ; ! 」

全ての蹴りが数段速度を増して、正確に急所を捉えていた。

殺意があつた。

しかも、それは決して不可能ではない。

だから一度だけ「技」を使った。

彼女は本気で俺を殺そうと責め立てていたのに……

その顔はまるで、

おびえて泣き叫ぶ子供のようなだった。

専門用語解説編（前書き）

例の嫌韓マンガ、売れ行き好調ですね。
嬉しい反面、先を越されたーって感じです。

専門用語解説編

一話

【日本人と犬、お断り】

実話です。

料理にツバを入れるというのも実話。

【日帝】

天皇。

ちなみに右翼左翼は韓国の好き嫌いとは無関係です。

【2002ワールドカップの洗礼】

極東3馬鹿の実態を晒すこととなった因縁の大会。

これまで中国韓国と在日コリアンは哀れな被害者だと信じられていたが、

2002年以降、日本人の洗脳解除が一気に進んだ。
長い目で見れば大成功のVIP大会。

【強姦大国】

韓国のこと。

アメリカ公的機関のホームページで警告されるほど凄い。
旅行する際、特に女性は注意しよう。

三話

【謝罪と賠償おつゆ】

韓国の政治家が日本の国会前でプラカードを抱え、座り込みを決行しました。

プラカードには、こう書かれていました。

「日本政府は反省しろ！」

【ネリョチャギ】

かかとおとし。

アンディ・フグは日本人嫌いで有名でした。
なでですかー。

【密航・不法滞在】

日本が嫌いなくせにゾロゾロ密入して来ます。
勘弁してください。

【漢江の奇跡】

韓国の高度成長。

北朝鮮の賠償金と、個人に対する賠償金。

これを韓国政府が着服して使い放題だったから、奇跡に見えたんです。

【紙一枚にお詫び三行】

極東三馬鹿曰く、謝罪の態度が悪いそうです。
何様ですか。

五話

【金日成バッチ】

外して外出すると逮捕されます。
名前に「日」入れるのやめてください。

【通名】

公的に認められた偽名。
なんと公的文書にも使える優れもの。
役場にいけば五分で変更可能。
公的文書に偽名が使えるんだから、犯罪、脱税にとっても便利。
在日の犯罪者を偽名で報道するマスコミでしたが、
やや改善の兆しあり。

七話

【生活保護】

政府からの援助金。
審査を受けて貧民認定されれば貰える。
なぜか在日コリアンが受給するときだけ、不当に金額が跳ね上がる。

内訳は、

家族の人数×四万円＋家賃免除＋あらゆる公共料金免除

日本人が受給する際は、免除なんてありません。
金額も抑えられて、ちよつと贅沢するとすぐ貰えなくなります。
在日はベントツに乗りながら半永久的に貰えます。

【不幸の法則】

敵にすれば頼もしいが、味方にすると恐ろしい。

朝鮮と組んだ国は、必ず戦争で負けます。アメリカですら負けました。

韓国に媚を売った企業がやらかした大コケの数々も記憶に新しい。

【『A級』だから、とても悪い人】

靖国論争で必ず聞くセリフ。

これはただの分類です。

A級だから極悪ってものではない。

【火病】ファビョン

韓国人特有の精神病。

想像を絶する激しい怒りによって口から泡を吹き、

我を忘れて暴れ狂う状態。

記憶を失ったり、ひどい時は呼吸困難により命を落とす危険性がある。

火病を我慢した結果、ストレスにより健康を損なう。

これを鬱火病という。

専門用語解説編（後書き）

明日、買います。

人権擁護法と参政権 前編

誰もが懂れるシチュエーションだが、
実際やってみるとそうでもないというアレは確かに存在する。

カチカチ……カチ

秋の夕方。

キリキリとヒグラシが鳴いている。

俺はパソコンにかぶりつき、

洗脳解除のカタルシスに酔っていた。

「カチカチ鳴らないマウスが欲しいぜ」

「こ、これは……！」

以下、モニターの一文

- - - - -

日韓併合後、在日朝鮮人は厳しい身分差別から逃れるため、
自らの意思で朝鮮半島を脱出して日本に渡ってきました。

日本がポツダム宣言を受け入れると在日たちは「戦勝国民」であると主張し、

「朝鮮進駐軍」を名乗り、各地で暴れ始めました。

日本の男たちは戦場に駆り出され、残っていたのは女、子供、老人ばかり。

朝鮮人たちはやりたい放題で、駅前の一等地は朝鮮人に占領されました。

もちろん、そこに住んでいた日本人女性は容赦なく強姦され追放されたのです。

当然、日本人は在日を強く憎むようになりました。そのため、在日朝鮮人たちは日本名を名乗るようになりました。朝鮮名を名乗ることは自分が犯罪者だと宣言しているようなものだからです。

朝鮮人たちは共産主義者と組み、マスコミを使って歴史の捏造を始めました。

「強制連行されて来た」「土地を奪われて仕方なく来た」等々。

そして強姦犯罪を謝罪せず、土地を占拠し続けながら、

「俺たちは何も悪いことをしていないのに差別される」

「不当な差別を受けている」

「謂れなき差別を受けている」などと宣伝しました。

朝鮮進駐軍を知らない世代の日本人は在日に対して罪悪感を持つようになりました。

在日たちは占領した一等地で事業を始めました。それが「パチンコ」です。

今でもパチンコ業者の8割は在日です。

パチンコは30兆円産業。何と自動車産業よりも規模が大きいのです。

パチンコ業界は脱税と、北朝鮮への送金で知られます。

「日本のパチンコがある限り、我が国は安泰だ（金正日）」

日本の政治家にもパチンコの金が流れています。

だから「パチンコ、パチスロはギャンブルではない」等という馬鹿げた論理がまかり通っているのです。

祖母や曾祖母が朝鮮人に強姦された場所でパチンコやスロットを楽しんだり、

朝鮮の民族料理である焼肉を食べる…これは「日本人」以前に「人間として」恥ずべき行為ではないでしょうか。

- - - - -

実話です。

俺はモニターを睨み、拳を震わせた。

「うあー」

「在日コリアンひでーことやってんなあ」

「なんなんだよ、こいつら」

コツ、コツ

「ん」

窓に何かが当たった。

ガラスと開ければ、数メートル前方にもう一つ窓。

「久本」

眼鏡つこが片膝を立てて窓際に座り、ひらひらと手を振っている。

ミニスカートだ。見えそうで見えない。

「なますてー」

瞳の奥に挑発的な光がある。

計算してやっているとしたか思えない、絶妙なチラリズム。

実は鏡の前で試行錯誤しているところを目撃してたりするが。

「ほら、成人おめでとう」

彼女は窓越しにビール投げてよこした。

訓練がてらキャッチする直前に、空中で栓を開ける。

「うわ！すごっ」

「bleuじじいに散々やらされた」

2階の窓越し。

眼鏡っこの幼馴染みと交わす、他愛ない会話。

「明日、何の日か覚えてる？」

実際に体験してみるとイマイチなシチュエーション。

これが正にそれだ。

「忘れた」

俺が鏡の前の久本を知っているように、久本からも色々と知られている。

相手が王道の幼馴染みキャラだからまだいいが、

これが赤の他人だったり、ましてや男友達だったら、どうか？
最悪だ。

「そんなことよりも聞いてくれ」

「在日コリアンがさあ」

俺は……

勝手に密入国してきて選挙権をほしがる図々しい民族。
『在日コリアン』について、熱く語った。

「うーん」

「人種差別なんて言わないよ」

「それが本当なら、軽蔑されても仕方ない、けど」
「……けどね。それは違うと思う」

彼女は正義感が強い純日本人。
だから、この反応は少々意外だった。
長く長く、討論は続いた。

「そうね」

「でも先生も仰られていることだから」

「私は強制連行を信じるしかないの」

「久本……ヤツは」

「お願い。貴方を仏敵にしたくない」

「それ以上は……お願い」

久本の瞳に宿る不思議な迫力に押され、
俺は黙るしかなかった。

「でも、これだけは言える」

「私は地球が好きよ」

「だって、私たち地球市民ですもの」

「俺まで一緒にするな」

彼女は穏やかに微笑み、
ポン、と拍手を打った。

「この話はこれでおしまいね」

経験上、韓国人と在日コリアンは だが、
純日本人は非常に手強い。

そして先生とは、学校の先生ではなく……（検閲削除）だ。

その日は、もやもやした気分のまま眠りについた。

論破も何もない玉虫色の決着。

思えばコレが、俺の人生で最初の討論だった。

深夜

窓から入る異様な殺気を受けて、
目が覚めた。

「……ろこめて」

「公明必勝成就法」

「南無妙法蓮華經」

「なむみよーほーれんげーきよー」

「……っ」

また始まったのか。

近所迷惑だから窓を閉めてやれと言ってんの。

「げーきよげーきよ」

眼鏡っこ久本の読経。

最初のころは金縛りでも喰らったのかと思って萌えたものだが、
どうやら違っらしい。

「げきよげきよ」

「げきよげきよ」

「げきよげきよ」

久本曰く、

宗教上の『お勤め』と本当に金縛りに遭った時と、
両方あるらしいが、よく分からない。
ていうか分かりたくもない。

「…うるせー…」

窓越しに怒鳴りつけてやってもいいが、
俺は一つのアイテムを手を取った。

これを投げ彼女にぶつけて黙らせようと思う。

位置関係はこうだ。

アパート

「（検閲削除）荘」

及び大家の住宅

2F

Ⅱ 標的

- - - - -

ゲキヨ 祭壇 ゲキヨ

ゲキヨ ゲキヨ

ゲキヨ ゲキヨ ゲキヨ

- - - - -窓-

- - - - -窓-

俺

- - - - -

双方の窓がほぼ直線位置にあるので
何を投げても当たらないように見えるが、
そこが逆に利点となる。

「ご近所迷惑退散法」

ベッドに横たわったまま、手首のスナップで投射した。
銀色の円盤が三日月の軌道を描き、
開かれた窓の向こうへと吸い込まれていく。

「あぎやつ」

スコーン、と軽やかな金属音とともに再び静寂が訪れた。

「2時半かよ……」

スルスルと糸を引いて「灰皿」を回収。

俺は完全犯罪を成立させ、穏やかな眠りを再開した。

翌朝

ガチャ

「入るよー？」

合鍵を使って久本が侵入してきた。
大家の娘なんで。

トストスと畳を踏む足音。
サラサラと衣擦れの音。

嗚呼。

幼馴染みが今、
俺を起こそうとしている。

突き抜けるように王道だ。

「ほら起きなさいよーっ」

「ん……」

「太郎さ」

「昨日、なんか投げた？」

曖昧な問いかけ。

初歩的な誘導尋問だ。

引っかかる俺ではない。

「しらにゃーい」

「鳥でも入ったんじゃないか」

「うーん……」

「でもスコーン、て」

久本が腕組みして推理を働かせている。
だがこれは達人的な体術を生かした完全犯罪だ。
結論が出せるはずもない。

「まあいいわ行きましょ！」

「どこへ？」

「決まってるでしょう」

眼鏡がキラリと光った。

「選挙よつつつつ」

政教分離を公言しながら、選挙活動に力を尽くし、
拳句に政党まで作ってしまった矛盾だらけの宗派がある。

- (検閲削除) -

「ほら選挙票、キミのだよ」

郵便受けから勝手に抜き取ったのか、ヒラヒラと票を振る。
二十歳の誕生日以来、やたらとモーションかけてくると思ったが、
これだったのか……。

人権擁護法と参政権 後編

朝もやのガレージに、俺たちは降り立った。

巢でもあるのだろうか

「チュンチュン」というよりも、

チュバチュバチュバチュバって感じてNO GOODだ。

雀の声に負けぬよう、俺は声を張り上げた。

「車を買ったのか」

「ふふん、外車よ」

誇らしげに胸を張る眼鏡つこ。

去年から引き続きA - c u pを維持、と。

「見んな！」（シャー！！！）

「んなモンに興味ねーんだよポケ」

「これ、ホンダだろ」

車庫入れで失敗でもしたのだろうか、

フロントのロゴは、グニヤリと歪んでいる。

「同じ『H』マークでも違うのよ」（投票が終わったら殺す）

「ヒュンダイって読むの」

「そってきたかッ」

ホンダ
ホンダイ
ヒュンダイ

韓国メーカー『SYON』に勝るとも劣らないネーミングセンス。
やはり、あの国は侮れない。

「赤い……な」

外車の世界には、一つの伝説がある。

『韓国車の装甲は、親指で押すとベコッと凹む』

湧き上がる衝動を押さえきれず、
震える親指を車体へ……

「きつ」

「ひい」

般若のような形相で睨まれた。

「もう」

「装甲を薄くするのだって、高い技術がいるんだからねっ」

「日本の技術だな」

「しかも赤い」

「こいつは装甲を犠牲にして三倍の速度を得たエース専用機だ」

「俺の手には負えない。ていうかまだ死にたくない」

「アレで行こう」

愛車プリウス。

ガソリンが減らないステキ車。

「んー、いいよ」

なんだか妙に嬉しそうだ。

淡い恋心を抱く幼馴染みの車へ初乗車でウキウキといったところか。

カチャカチャ、ボタン

ロック解除

ボタン

「よいしょつと」

「へえタバコの臭いがしな……」

「あ」

「邪教の呪符だわ」

乗るや否や、久本は汚い物でも見るような表情で、車内のお守りをツンツン突付き始めた。

「いい機会だから教えておく」

「それは『神社のお守り』という品物だ」

「邪教の呪符だわ」

一旦、手を拭いてシャーペンで突付いている。

こいつの奇行に付き合つとキリがない。

構わずキーを捻った。

キュルルン

サイドブレーキを下ろすと、
車体が緩やかに滑り出す。

「こんな物つけてるから駄目なのよ」（ツンツン）

夏の日差しを受けてキラキラと輝く緑が、
青い風を帯びて後ろへ流れていく。
原色の空。

本当にいい天気だ。

「ちょっと暑いね」

「窓、開けていい？」

「いいとも」

ウィーン、プチ。

「えいつ」

「小泉さん、また靖国参拝するんだって」

「総理が戦犯を拝むなんて、末法の世だと思わない？」

「軽々しく先祖を侮辱するな」

「東京裁判で決まったA級B級など笑止」

「記録を紐解いてみる」

「捕虜にゴボウ食わせたから死刑！とか、笑える内容だぞ」
「ところで最初の掛け声は何だ？」

「そ、それはそうだけど」

「でも韓国の人たち、怒るでしょ」

「日本と一緒に戦争を始めたくせに、負けた途端に裏切って戦勝国宣言したクソ国家か」

「戦死者の冥福を祈って、あいつらに何の迷惑がかかる？」

「で、最初の掛け声は何だ？」

赤信号。

左を見ると、案の定。

お守りが綺麗サッパリ消えていた。

「…」

「こやつめ」

「投げ捨ておったか！」

「えへ」

「そつえば、以前は聖書を破いたな」

それはもう。

『こんな物があるからダメなのよつつつつ』と、

空手家の如くズバツと引きちぎった。

奇行よりも、その腕力に驚いた。

「はい、我慢できませんでした」

「いいか」

「こういった奇行を重ねれば、今度は（検閲削除）が邪教の謗りを

受けることとなるぞ」

「君が淡い恋心を抱く幼馴染みとして、苦言を呈しておく」

「はい」

「スミマセング」

（抱いてねーよ、ばーか）

「ったく」

「今度お守りを投げ捨てたら……」
「……」

「投げ捨てたら？」

「……」（小っせえ）

信号が青に変わった。

「貴様の貧乳など触れる価値もない」

「猛省せよ！」

「なにそれ！」

「意味わかんない」

方向指示器を右へ。

カチカチという音は、あまり好きじゃない。

「ちょっと寄り道するぞ」

「どこへ？」

「決まってるだろう」

「まさか」

「お守りがないと落ち着かないんだよ」

「や、やめてー」

半泣きでハンドルを掴もうとする久本を、
自由な左腕で制圧。

「神社はいやあああ！」

運転に支障は無い。

適当な神社に乗り付けて、お守りを買った。

「うう、気持ち悪い」

乗り物酔いではない。

彼女を含めた地球市民の方々は、なぜか神社や教会に近寄ると強い
不快感を示す。

お守りを投げ捨てたり、聖書を破いたり、鬼か悪魔でも憑いている
のではないかと時々思う。

「お抜いでもしてくか？」

「早く、早くここから離れて……」

こういった性癖は極一部であると信じたい。

「どっちが邪教なんだか」

そんなわけで、

帰り道にある投票所にやって来たのだ。

「由々しき事態だな」

内も外もジジババしかない。そら年金も壊滅するっちゅーねん。

「いい？」

「公明に入れるのよ」

ふと見ると、

復活した久本は、物凄く偉そうだった。

黙って他の党に入れても分かりやしないが……

回想シーン

- - - - -

「太郎よ」

「ぬしも二十歳か」

白髪の老人が満月を背に、豊かな髭を撫でる。

「bleuじい」

「聞いてくれ」

「俺はしっかりした大人になりたいんだ」

成人式〃モンキーフェスティバル

【monkey festival】

成人式で、

珍走団の末路を見た。

ああはなりたくないと思った。

それは、今も変わらない決意だ。

「しっかりした大人だから、選挙にも必ず行く」

「どこに投票すればいいか助言を頼む」

2002ワールドカップの洗礼を受ける前のこと、
まだ政治については素人だった。

「そうじゃのう」

じじいは熟考の後、
言った。

「日本を滅ぼしたいなら自民党」

「そう」

「自民党に入れると良い」

汚職にまみれた巨大与党……なるほど。

「そして」

「一刻も早く日本を滅ぼしたいなら」

「民主・公明じゃ」

「ははは」

「最後に……」

ゴクリ。

「色々な意味でガツカリ感を味わいたければ、他の政党かのう」

「究極の選択かよ」

「ゲラゲラ」

「そういうことじゃ」

「カカカ」

二十歳の誕生日、

師匠と祝杯をあげた、あの日。

- - - - -

bleuじじい……。

「久本、ごめん」

間違っているものは間違っていると話し合っことができる。

それが真の友好だ。

ハイハイ言うことを聞くだけなら、むしろいい方がいい。

そんな関係は……互いの心を歪ませるだけなのだから。

「俺、公明には投票できない」

「あら」

眼鏡がキラリと光ったと思うと、
彼女の雰囲気ガラリと変わった。

「なぜかしら？」

「理由を聞く権利くらい……あるわよね」

「まず一つ」

「在コリの参政権」

凄まじい殺気。

目の前にいる、こいつは誰だ？

「税金とか法律とか以前に『朝鮮進駐軍』には参政権を授かる『資格』が無い」

「君も知っているはずだ」

膝がガクガク震える。

今すぐここから逃げ出したい。

「なるほど」

「確信があるのね」

脂汗。

「そして、もう一つ」

「人権擁護法」

「この二つに賛成するような政党は、正気じゃない」

だが、この恐怖。

これは彼女の殺気だけが原因ではない。

「俺は恐ろしいよ」

「日本がここまで毒されていたなんて」

- - - - -

人権擁護法について

1 .

自称・被差別民族、

ヤクザと在日コリアンとカルト宗教の教祖。

これらから二万人を選び出して凄まじい特権を与えて、

日本人を徹底的に監視しようというステキ法律です。

外国人もなれてしまふところが、とてもステキ。

戦中の特高警察を想像すればいいでしょう。

自称・被差別民族に逆らう者は即逮捕です。

2 .

委員の勝手な判断によって礼状なしで強制捜査可能。

昼夜問わず、事前連絡も何もなしにズカズカ侵入できます。

民間企業がこれをやられたらお仕舞い。

そして冤罪の場合、罰則なし。

「差別」の基準が曖昧なので、適当にこじつければオッケー。
もうやり放題。

3 .

罷免できない。

人権擁護委員を監査する組織は無く

警察よりも強力な特権を持っているので、

官僚よりも一生安泰。

汚職しまくりです。

結論

カルト・在日・ヤクザを徹底的に保護するステキ法律です。

- - - - -

投票が終わった。

「やってくれたわね」

「法を犯さずに人を殺す方法なんて、いくらでもあるのよ?」

冗談だと分かっているが、（検閲削除）の信者が言っとシャレにならない。

帰りの車内。

「やっぱりアイツって、在日なのか?」

「さあ、どうなのかしらねえ」

そして夕暮れの駐車場。

チヨンチヨンチヨン!

ドアが開いた瞬間、雀が一斉に飛び立つ。

「さようなら」

「あははー」

彼女は終始ニコヤカだった。凍りつくような笑顔だった。

「サヨウナラ」

「…」

疲れた。

これから選挙のたびに、同じようなことが繰り返される予感がする。プリウスのガソリンがほとんど減っていないこと、それが唯一の救いだった。

嗚呼、

夕焼けが綺麗だ……。

従軍慰安婦の涙・予告編（前書き）

名古屋に従軍慰安婦が来たことありましたね。
その時はなしです。

従軍慰安婦の涙・予告編

1.
とんでもない金額の貯金があったり、借金を返済したり、豪邸を建てたり、どこからお金を調達したの？

2.
コロコロ証言が変わるのはなぜ？
日本軍がいないとこで働いてたり、
日本軍のクリスマス休暇って……

3.
アメリカの公式文書を見ると、
強制連行された従軍慰安婦というよりも、
半島の伝統を色濃く受け継いだ売春婦そのものなのですが。

NAGOYAドームは灼熱の正義に包まれた。

慰安婦こいつ！！！！
こいつは私の祖父に強姦男、殺人鬼の濡れ衣を着せた！！！！！！
つまらない名誉と！！！！お金のために！！！！！！！！
けど！！！！！！！！

けれど……

「アイゴー」

論破を受けてブルブル震える老婆の姿。

彼女はもう、残り少ない命。

私は哀れみを感じて、このように締めくくった。

「ひとこと……一言でいい。私たちの先祖に謝罪してください」

「日本人はそれだけで満足します。汚いお金なんか、誰も欲しがりません」

「日本人はお人よしの馬鹿だけど、純粹で優しくて……」

「……」

「そんな日本を貴方はッ……！！！！！！」

私は悲しくて苦しくて

涙が溢れて、

何も言えなくなった。

今まで私を罵っていた在日コリアンとその下僕たちも静かになって、見守っている。

「お願い……謝ってよ……」

私には「覚悟」がある。

彼女の返答しだいでは、それを実行に移す「決意」も。

きっと私の祖父は、こう言うだろう。

『おどけ者こいつ！！』

『私の名誉は、貴方の人生に比べたらキムチみたいな物だ！』

そして韓国人のように火病を起こして、ふきんを投げつけるのだ。

私は声を出さずに笑った。

ポケットには二つの道具が入っている。
彼女を刺し殺すため研ぎ澄ましたナイフと、そして。
自分を殺すために作った拳銃。

そう。

冥府で祖父に再会して、雷のような説教を受けるのだ。

「…」

老婆は彫像のように動かない。

凍りつくような時が流れて。

やがて彼女は重々しく口を開いた。

「私は本当にひどいことをしました」

「スミマセング・・・」

「ごめんなさい！！！！」

そう言つて老婆は両手で顔を覆った。

皺が刻まれた指の隙間から、キラキラと輝く宝石が零れ落ちる。

「本当に悪い人はいない。信じさせてくれてありがとう」

「ありがとう！！！！」

2004年8月・・・突き抜けるような晴天。

私はあの日、信じられない光景を見た。

悪の権化ともいえる在日コリアンから巻き起こる、砂嵐のような拍

手。

それは本当の日韓友好へと続く誠の音色だった。

f i n

以下、モンゲキの感想。

韓 - 精神病治療に適切な薬はないか？

韓 - とても小説をスネ　！！！！

韓 - 野郎。鉄砲でうつて死ねば良いでしょう。

何しに刀を持つ。だから時間が残って

ちよつと小説もちよつとリアルに書きなさい　！！！！

韓 - 刀を爆弾に変えてそれがもつと悲壮なの

そしてお前は爆弾で慰安婦お婆さん及び在日朝鮮人に膺懲を加える。
やっぱり、ここを直してくれ　^　^

韓 - こんな日本人がいるから日本の未来は暗鬱としている。

韓 - 日本文学（？）系の小説ベストセラーがこれか？

韓 - やはりお前には神風精神が不足だ　！！！！！！

一番美しい崇高な精神が不足だ。だから失格。再び書いて来てくだ
さい　！！！！！！

従軍慰安婦の涙・予告編（後書き）

拳銃は素人が撃つても当たらないんですよ。
だから自分用なんです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1768a/>

全年齢版「現実日本男×韓国女なんです」

2010年10月11日13時59分発行